

# 県政かわら版

- 1面 鶴丸城御楼門の建設
- 2面 川内原子力発電所に係る取り組み
- 3面 子育て支援制度
- 4面 情報ボックス/特産品プレゼント

発行/鹿兒島県知事公室広報課  
 〒890-8577 鹿兒島市鴨池新町10-1  
 ☎ 099(286)2095  
 FAX 099(286)2119

県政かわら版は、県内全世帯配布の県政広報紙です。

県政かわら版は点字版・録音版も発行しています。

ご希望の方は鹿兒島県身体障害者福祉協会 ☎099(228)6271 までご連絡ください。

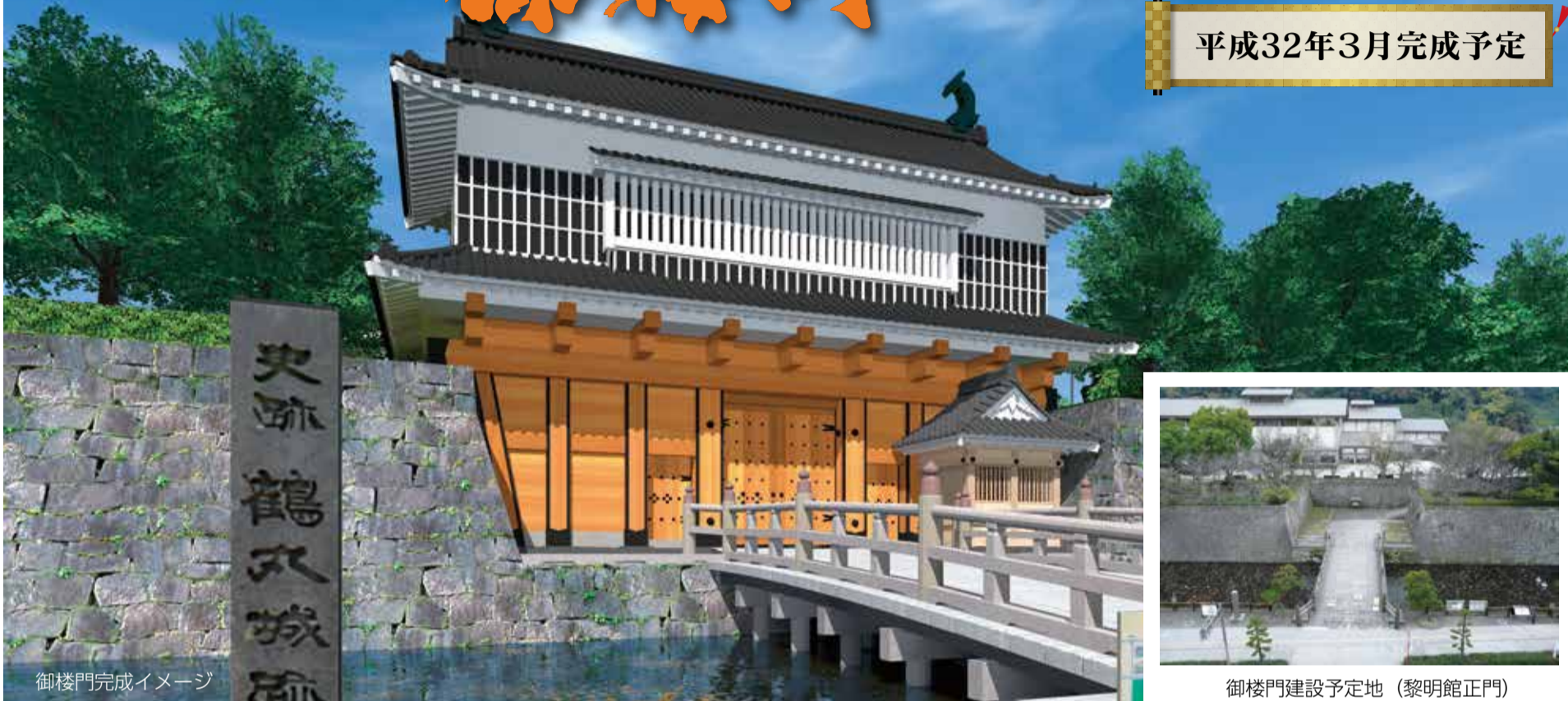
今月号の県政かわら版およびバックナンバー(音声版も含む)は、県ホームページでご覧いただけます。

県政かわら版

検索

## 鶴丸城 御楼門ごろうもんの建設に向けて

平成32年3月完成予定



御楼門完成イメージ

御楼門建設予定地(黎明館正門)

鹿兒島(鶴丸)城は、慶長6年(1601年)頃に、のちに島津家第18代当主・初代藩主となる家久が建設に着手した島津氏の居城で、背後の山城(城山)と麓の居館からなる城です。居館(現：鹿兒島県歴史資料センター黎明館(鹿兒島市城山町))の正面中央には、鶴丸城のシンボルとして御楼門がありましたが、明治6年(1873年)の火災で焼失しました。

現在、県では、官民一体となって設立した「鶴丸城御楼門建設協議会」において、御楼門の建設に向けた取り組みを進めています。



御楼門(鹿兒島県立図書館蔵)



市場で調達したケヤキの大径木  
 【長さ】10メートル  
 【直径】110センチメートル



御角櫓(尚古集成館蔵)

### 建設の意義

御楼門の建設については、平成25年4月に鹿兒島経済同友会を中心として、経済界や個人による募金などを主な財源とする復元計画が提言され、その後発足した「鶴丸城御楼門復元実行委員会」が企業や個人に対して寄附金の募集を行った結果、目標額を上回る寄附が集まりました。

この取り組みは、民間が主導する官民連携のモデルの一つであり、また御楼門の建設は、鹿兒島の歴史や文化、建築技術の継承のほか、新たな観光拠点づくりとしても意義のあるものです。

さらに、御楼門が鹿兒島の新しいシンボルとなることで、文化施設などが集中する鹿兒島市城山町、山下町一帯の「かごしま文化ゾーン」のさらなる充実や、街なかのにぎわい創出など、中心市街地が活性化することも期待されます。

### 建設に向けた取り組み

県と「鶴丸城御楼門復元実行委員会」は、平成27年2月に「鶴丸城御楼門建設協議会」を設立し、平成32年3月の完成に向けて、鹿兒島(鶴丸)城跡保存活用計画の策定や設計、建設に必要な大径木の確保など、必要な取り組みを進めており、平成29年度に着工する予定です。

また、県では、御楼門と連なり城郭を構成する重要な建物である御角櫓も併せて建設することとしています。御角櫓は、本丸の南東角に位置し、城の防御のほか、物品収蔵施設としての用途もあった建物で、篤姫が御角櫓から祇園祭を見物したという記録も残っています。御角櫓の建設により、城郭の美観や威厳がさらに増すものと考えています。

### 岐阜県の協力

江戸時代の薩摩藩による宝暦治水工事の偉業を縁に、本県と姉妹県盟約を締結している岐阜県では、御楼門の建設に岐阜県産のケヤキを提供することで、両県の絆を深めようと、平成27年12月、「鹿兒島県との友好の証プロジェクト実行委員会」が設立されました。このケヤキは、今年秋に、御楼門の大扉用として贈呈される予定です。

### 御楼門の大きさ

火災で焼失する前の明治初期に撮影された写真や、礎石に残る痕跡から、高さ約18メートル、幅約20メートルの堂々たる建物であり、主柱(鏡柱)は幅3尺(約90センチメートル)もあったとされています。



今も残る御楼門の礎石の一つ